

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和元年度 加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会
開催日時	令和元年8月20日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	加東市滝野公民館2階講座室(加東市下滝野1369番地)
議長の氏名(神戸 仁)	
出席及び欠席委員の氏名	(出席委員5人) 大久保 榮造、酒井 隆昌、秋原 義博、山田 将人、神戸 仁 (欠席委員1人) 小野里 光子
説明のため出席した者の職氏名	無し
出席した事務局職員の氏名及びその職名	加東市教育委員会 教育振興部長 西角 啓吾 教育振興部生涯学習課 課長 長田 徹、係長 吉田 浩康、主査 藤原 光平
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 会議内容 (1) 報告事項 ・平成30年度事業報告について ・令和元年度事業計画について (2) 協議事項 ・令和2年度加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会委員改選に係る委員の推薦について ・加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営について 2 会議の経過 別紙のとおり

令和元年9月18日

議長 神戸 仁
署名人 酒井 隆昌
署名人 秋原 義博

(別紙)

令和元年度加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会 会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
事務局 事務局	1 開会 2 あいさつ
	議長の選任：神戸 仁 委員を選任 議事録署名人の選任：酒井 隆昌 委員、秋原 義博 委員を選任
事務局	3 報告事項 (1) 平成30年度事業報告について 平成30年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営状況について (別紙1)説明。 続いて、(別紙2)平成30年度寄贈・寄託資料について説明。
議長 事務局 議長	この寄贈資料は、どこから寄贈を受けたのか。 曾我地区の個人から寄贈を受けた。 懐かしい。私の家にも同じようなものがあつた。昔、これでおやじが縄を編んでいたことが記憶にもある。これで俵を編んでいたと思うが。 そのとおりである。
事務局	3 報告事項 (2) 令和元年度事業計画について 令和元年度 加古川流域滝野歴史民俗資料館無料開放について (別紙3)説明。 続いて、(別紙4)令和元年度 ギャラリー活用事業 加東市文化財企画展について説明。
大久保委員	(別紙1)の4ページに社会科の授業「昔の道具」とあるが、見学に係る時期において2学期又は3学期といった指定はあるのか。
事務局	時期についての具体的な指定はないが、例年、秋から冬の期間に小学校の社会科見学で当館を利用されることが多い。
大久保委員	昔は、3学期ごろに社会科の授業 {昔のくらし (道具)} があつた。その時期に加古川流域滝野歴史民俗資料館内の大部分の展示物を片付け、生活道具をメインにした特別展を開催した。その特別展の内容を学校へ周知すると、学校は加古川流域滝野歴史民俗資料館へ見学に来たものである。当時は、加西市や加古川市からも学校の社会科見学で加古川流域滝野歴史民俗資料館に来館していた。 しかし、最近の学校の先生自体が古い道具を見ても、どのような道具なのかが分からなくなっている。だから、学校関係における加古川流域滝野歴史民俗資料館の見学が少なくなったのかもしれない。 学校が生徒を取りまとめて団体となって観覧に来てもらえなければ、個々の生徒に個別に観覧に来てもらえるよう呼び掛けてもなかなか来てもらえない。 学校の社会科の授業で取り上げられる昔の生活道具をメインにした展示を、時期を見計らって開催するということを検討してほしい。

事務局	<p>地域の団体などに観覧に来ていただくためにも、無料で市のマイクロバスを送迎用に走らせるなどをしてサービスしないと利用者数は増えないのではないか。</p>
大久保委員	<p>展示の仕方については、ご指摘いただいた意見を考慮の上、創意工夫して展示をしていけるよう努力する。</p>
事務局	<p>市のマイクロバスの無料運行については… 無料で市のマイクロバスを走らせることは出来ないか。そういう風なことをしないと、住民はなかなか自主的に観覧には来ていただけないのではないか。</p>
事務局	<p>現状においては「藁屋根葺きに使われる道具たち」に関するものを一部展示コーナーで展示をしている。その展示コーナーにおいて、時期によって展示物を変えてみてはどうかということを現在検討中である。別紙1の資料を見ると、3学期には「古い道具」に関する社会科の授業の関係で、小学校3年生の児童が当館に見学に来ていただいているが、そういう時期に合わせて「古い道具」にテーマを絞った展示をしていけるよう検討したい。</p>
議長	<p>それから、市のマイクロバス無料運行については、他の部署にも関わってくることなので、即答は出来ない。 昨年度、神戸新聞旅行社と加東市観光協会が連携して当館の観覧を含めたバス旅行ツアーを企画していただいたことがあるので、今後もそのような企画で、市外の方にも当館に来館していただけるよう関係機関に働きかけをしていきたい。</p>
事務局	<p>もっと区長会に働きかけて、区長会の中のいろいろな部会等会合の折に加古川流域滝野歴史民俗資料館へ見学に来よう要望すべきではないか、会合時の視察の一つとして。</p>
議長	<p>また、市のマイクロバス利用については、加古川流域滝野歴史民俗資料館の見学バスツアーを市のマイクロバスを使って計画してもらうよう、地区の子供会などに働きかけてみてはどうか。</p>
事務局	<p>市のマイクロバスは、現状、地域への子供会への貸し出しは行っていない。市のマイクロバスを借りる例としては、市の事業による小学生対象のチャレンジスクールにおいてゴルフをするためにゴルフ場に行ったり、淡路島で手打ちうどん打ちに行ったりする場合において借用可能である。</p>
事務局	<p>市の事業による小学生チャレンジスクールや子ども教室の一つとして、当館の見学と文化財係担当職員の資料館展示資料に関する説明により、夏休みの自由研究のテーマを見つけるという企画も検討していければと思う。</p>
議長	<p>加古川流域滝野歴史民俗資料館の傍にキャンプ場とかあれば、集客率の増加につながるのではないかと。例えば、加古川流域滝野歴史民俗資料館を見学し、その後キャンプする、とか。もう一つ何か施設があればいいのかもしれない。</p>
事務局	<p>せっかくいろいろなご意見をいただいているので、協議事項が前後するが、このまま引き続き加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営についてご意見を頂きたい。</p>
議長	<p>区長会をもっと利用した方がいいのではないかと。</p>
大久保委員	<p>区長会の事務局は、どの部署か。</p>
事務局	<p>市民協働部人権協働課である。</p>
議長	<p>人権協働課が社・滝野・東条の代表区長を集めて会議等行い、そして代表区長からそれぞれの地域の区長へいろいろな内容を伝達される。</p>

事務局	<p>東条地域の区長会の方が加古川流域滝野歴史民俗資料館に来ていただけるのであれば、東条地域に関する文化財を見ていただきたい。先ほどの意見にもあったが、展示コーナーの展示部分を出来るだけ変えていけるよう努力したい。常設的な部分は滝野地域のものが中心となってしまうが。</p>
議長	<p>たとえ常設的な部分の展示が滝野地域のものであったとしても、社・東条地域の人も展示している道具類と同じようなものを昔は使って作業をしていたはずである。滝野地域のもを展示していたとしても、たぶんどこの地域の区長が見ても、「ああ、これは記憶にあるなあ。」とか、「こんなものが、昔あったなあ。」とか言って懐かしむものであろう。</p>
事務局	<p>例えば農具とかは、どこの地域であっても同じようなものを昔は使っていたと思う。</p>
大久保委員	<p>もっと真に加古川流域滝野歴史民俗資料館の観覧者数を増やそうとするのであれば、チャレンジスクールや子ども教室で加古川流域滝野歴史民俗資料館の見学を企画するようなことをしなければいけないのではないか。</p>
議長	<p>少子高齢化や過疎化が進み、後継者不足で悩む地域がある中で、だからこそ、僕らがやっていることを今の子供たちに見せておかなければいけないのだけれど、残念ながら今の子供たちはなかなか見ようとはしてくれない。</p> <p>私が子供のころは、ずっと親父の背中を見ていた。あの時に大変な目に遭って農業をしていた親父を見ているからこそ、現在の農業はかなり進歩して以前よりも楽になったということを実感している。しかし、そういった昔のことを知らない今の子供たちに現在の農業は以前よりも楽になったと言っても、農業は大変な作業だというイメージが先行し、今の子供たちは農業をやろうとしない。</p> <p>そのような時代の中で、いろいろなことを「見ておかなければいけない。」ということをお我々の世代は理解しているが、今の子供たちは分かっていない。</p> <p>だからこそ、今の子供たちに昔の機械を見せることにより、子供たちは、「これは何なんだろう。」と言うかもしれないが、後々そのことが役に立ってくると思うので、やっぱり知っておくことは大事である。しかし、残念ながら今の親たちは、全然見せていないと思う。</p>
大久保委員	<p>後を継いでくれないから、今の親たちは見せようとはしないのかもしれない。</p>
事務局	<p>現状、学校との連携という意味においては、まだまだ足りない部分はあるが、昔の道具や地元の歴史について学ぶための授業の一環として当館に見学に来ていただくということが、学校教育の中で出来る唯一の部分である。その上で、家庭における親と子の関係の中でどれだけ親が子供に意識を植え付けることができるのか、ということのきっかけづくりを当館がどこまでやっていけるのか。それが社会教育の一環だと思うので、その部分について加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業として何かしらやっていければと思う。そのためにも、元となる資料を集めていかなければならない。</p> <p>毎回、当運営委員会で議論になるのは、どの世代のものを集めるべきか、という問題である。今使われているようなものまで集め、それを見て現状を感じていただく必要があるのか、その辺りについても加古川流域滝野歴史民俗資料館に観覧に来ていただいて議論していただくことが必要なのではないか。</p>

大久保委員	昔の道具というのは、50年、100年と同じ道具で若干改良して存在していた。しかし、今日日早い。1年経ったら、すぐ変わってしまう。
事務局	電動化が進んでから、大分物において、在り方というものが変わってきた。そういうものまでも集めていくのかという問題もある。
大久保委員 事務局	そういうものまで集めていくということは、なかなか難しいと思う。 例えば60年代、70年代の高度成長期時代のものをある程度は押さえていくべきではないかと考える。それ以降のものを集めていくのは、追いつかないと思う、相当増えてきているので。個別に検討していくしかない。
事務局	事務局間で申し訳ないが、昔使われていた道具などが家に眠っていないかということを以前に市民に問い合わせたことはなかったのか。
大久保委員	広報を使って、市民に問い合わせたことはある。それ以前に、この加古川流域滝野歴史民俗資料館を建てたという目的は、もちろん加古川流域の資料を保存することも目的ではあったが、一つに中国道ができ、工業団地ができ、いろいろな開発が起きた時に田んぼが売れてお金が入り、そのお金で家を建て替えた。その時に古い道具は全部捨ててしまうということがたくさん発生し、これでは後世に古い道具を伝えることが出来なくなるという危機感から加古川流域滝野歴史民俗資料館を建てた訳である。家をつぶしてしまう時には一言声をかけてくださいとか、そういうPRをした。加古川流域滝野歴史民俗資料館にある資料は、ほとんど戦後、昭和30年代くらいから前のものであるが、それ以降の物は無い。というのも、道具の進化が早いからである。
事務局	昔の暮らしに関する展示会をするにしても、今の高齢者が生きている間に学校の先生や市の職員が聞いて覚えていなければ、次につながらないということである。今の先生でも子供を連れてくるだけである。つないでいかなければ、「これは何をするための道具なのだろう。」と言って分からないままになってしまう恐れがある。 大々的に昔のように広報するという案もあると思うが、その中で懸念されることは収蔵場所がほとんど無いということである。それから、どういう基準で寄贈資料をいただくのかということも検討課題である。 個別に寄贈資料の申し込みの連絡をさせていただいているが、場合によっては、お断りするケースもある。収蔵スペースが限られた中、あとどれくらい寄贈していただくべきなのかというのが、今後の課題である。
事務局	4 協議事項 (1) 令和2年度加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会委員改選に係る委員の推薦について(別紙5)説明。
議長	どこの地区にも文化財のことについて詳しく知っている人がいると思うが、そういう方々が委員になれるのか。
事務局	(別紙5)の2ページ中、加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館条例施行規則第15条に記載のとおりである。誰でも委員になれるというのではなく、委員になるための縛りというものがある。
議長 事務局	学識経験者とは、どの範囲の学識経験者か。 学識の内容が当運営委員会の委員としてふさわしいものかどうかを事務局で判断する。
議長	特に教職の経験のある方でないといけないとか、そういうことがあるのか。

事務局 議長	絶対条件ではない。 河高地区で歴史書を作られた方々がいるが、その人たちも候補としてふさわしいのかもしれない。
事務局	加古川流域の歴史に対して思いがある地元の人が、適任である。
事務局	4 協議事項 (2) 加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営については、先ほど報告事項の質疑応答の中で話し合ったため、割愛することとなった。
事務局	5 閉会